# 妊婦や子育て中の母親のストレスに関する研究

関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　教授　　千葉　陽子
研究分野：生涯発達看護学　助産学

少子化が進行する中、妊婦や子育て中の母親たちは様々なストレスを抱えて生活しています。こうした方々の現状を把握してストレスの可視化に取り組んだり、支援を探究したりしています。

## ■WITH・POSTコロナ時代に求められる妊娠期の健康教育・保健指導のあり方の探究

・COVID-19パンデミックの影響により国内外で人々の移動・接触の制限が続く中、対面・接触を主軸としてきた医療・看護の領域でもオンラインによる非対面・遠隔での支援が急速に広がっていきました。周産期領域でも、医療機関や行政機関での業務に様々な制約が生じ、妊婦や母親たちの生活行動にも制限が課されるようになり、オンライン支援が導入されていきました。
・こうした中、本研究では妊娠期の健康教育や保健指導に焦点を当てて、WITH・POSTコロナ時代に産科医療・地域母子保健分野で求められる支援のあり方、特に助産師や保健師ら医療専門職に真に求められている対面・接触での支援の本質を探究することを目指しています。

## ■生殖可能年齢の女性のライフイベントと尿中ストレスマーカーとの関連性

・酸化ストレスとは、活性酸素の産生が過剰となり抗酸化防御機構が崩れた状態のことです。一方、ヘムの代謝産物であるビリルビンは黄疸の原因物質ですが、強力な抗酸化作用があり、過剰な活性酸素と反応してバイオピリンとして尿中に排泄されます（塩地，2005；山口ら，2005；平井ら，2006；高橋，2019）。
・そのため、非侵襲的採取が可能な尿中のバイオピリンを酸化ストレスマーカーとして評価する研究が行われており、バイオピリンは精神疾患（Miyaoka et al.，2005）、敗血症（Otani et al.，2001）、心筋梗塞（Kunii et al.，2009）などの他、マラソン後（平井ら，2006）、スピーチに伴う精神的ストレス（Yamaguchi et al.，2002）などでも上昇することが報告されています。
・本研究では、非妊娠女性、妊婦、産後の母親らの尿中バイオピリン（urinary biopyrrin: UBP）を分析し、これらの人々のストレスを数値化して評価することに取り組んでいます。

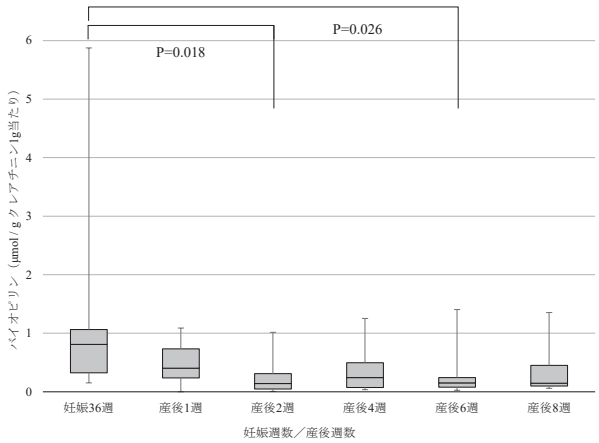



**図1　尿中バイオピリン値の変動**

各時期n=14, Friedman test : p=0.008

＜共同研究の状況＞
セルスペクト株式会社：生殖可能年齢の女性のライフイベントと尿中ストレスマーカーとの関連性